

住みごこち一番・可児 ―～安心、元気、楽しいまち～の推進

秋は人権文化のとき

さらに共に生き合うことを考えよう！

今まで「当たり前」だった日常生活に偏見や差別がおこっています。
 このコロナ禍の中、もう一度、自分の周囲を見つめなおしてみませんか。

実りの有難さを味わい 体力をつけ カルチャー(文化)で心を耕しましょう！

紅葉 (可児川下流域自然公園)

私らしくいられる街

特別寄稿

可児市ふるさと広報大使 塚本 明里



昆虫や魚を捕まえたり
 鳩吹山でピクニックしたり、
 児童合唱団に習い事。子ども
 の頃は可児市の自然と文化に
 ふれ合い、のびのびと育ちまし
 た。

「やりたいと思ったことは全部やる！」そんな私の人生が変わったのが高校2年生の頃。3つの難病を発症しました。虚脱感・全身痛・失神、数えたらきりがありません。体を動かすことが好きだった私は、当たり前になってきたことができなくなり悔しさでいっぱい。それでも負けず嫌いの私は学校に通い続け、先生方のサポートを受け高校を卒業することができました。その後、岐阜市のまちづくり団体ひとひとの会で柳ヶ瀬商店街非公式キャラクター「やなな」の広報として活動を始めました。寝たきりに近い私でもできる範囲のことで役割をいただけたのです。「できないことを数えず、今できることを数える」ようになり前向きに。

そんな中、私の病気の1つでもある筋痛性脳脊髄炎に多くの社会問題があることを知り、患者会「笑顔の花びら集めたい」を立ち上げました。それらの活動を富田成輝可児市長が見てくださっており、平成25年「可児市ふるさと広報大使」を拝命いたしました。その後は高校や大学の講師や「岐阜県ヘルプマーク普及啓発大使」などを任せていただいています。昔の身体に戻ることはできませんが、育ててもらった大好きな岐阜県や可児市のために活動できることが幸せです。病气や障がいがあっても社会参加できる環境に感謝。そして支えてくださっている全ての方々に感謝し、これからも地元のために頑張ります！

主な 後期活動計画 やります！

入場無料

可児市人権啓発センター主催 子どもの人権講演会

子どものサインわかりますか？

好評につき
第2弾!!

「話せばわかる」が通じない！

子どもの反抗的な態度、投げやりな様子、一方的な主張の繰り返しにイライラ。親のかける言葉次第で反応が変わってきます。親としてどのように対話したらいいのでしょうか。心に響くエッセンスをちりばめた「魔法の言葉」をこの講演会で学んでみませんか？

講師：小栗正幸 先生

講師プロフィール

- ・特別支援教育ネット代表
- ・(元)三重県教育委員会
発達障害支援
スーパーバイザー
- ・(一社)日本LD学会名誉会員



内容 反抗期の子ども達への対話術

日時 令和2年 11月13日(金) 13:00~15:00

場所 広見地区センターゆとりピア 第1会議室
可児市広見7-77 TEL (0574)62-2101

お茶をご用意して
お待ちしております。



申込み方法

電話・FAX・メールにて「お名前」「電話番号」
「先生へのご相談」をお知らせください。

申込み・問合せ

専用申込みフォーム

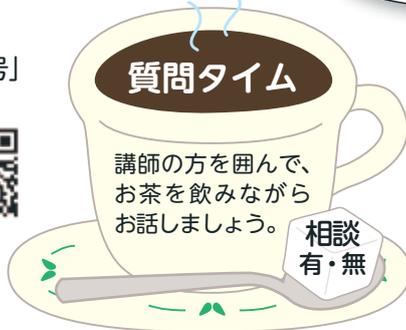


可児市人権啓発センター

可児市広見 1-5 可児市総合会館 2F

TEL/FAX (0574) 63-7990

E-mail : jinken.nukumori@gmail.com



講師の方を囲んで、
お茶を飲みながら
お話ししましょう。

相談
有・無

悩み相談

個人的に、先生とお話
できます。(申込み時に
ご相談ください)



※定員 30 名。定員になり次第、受付を締め切らせていただきます。

後援：可児市・可児市教育委員会

11/9 子ども・ぬくもり教室
11/18 (小学校巡回)

今渡南小：11/9(月)
桜ヶ丘小：11/18(水)



12/4 ~ 12/10 人権週間啓発活動

人権旗掲揚：市役所・総合会館正面玄関前
庁舎側面たれ幕

3/1

機関紙「ぬくもり」75号発行
(市内全戸配布)

人権マンガまつり ご自由にご覧ください。
9時~16時

11/12~ 11/19 総合人権マンガ展
(広見地区センター)

11/24~ 12/8 総合人権マンガ展
(福祉センター)

11/28~ 12/13 人権合同展(図書館と共催)
(標語・300字小説入選作品 他)

12/10~ 12/18 市役所人権マンガ展
(市役所ロビーにて)



主な 前期活動実績 やりました！

7/1

機関紙「ぬくもり」73号発行
(市内全戸配布)

7/6 ~ 9/4 「標語・300字小説」募集

[結果] 令和2年度応募数 2,982 作品
[内訳] 標語 2,608 作品・300字小説 374 作品

多数のご応募、ありがとうございました。

7/17 ~

小学校「人権本巡回制度」スタート
(愛称：ブックス・フロー)

- ・選考本 70 冊 (勇気・友情・希望)
(道徳 4 コマまんが冊子)
- ・道徳 4 コマまんが、しおり付



法務省：「主な人権課題」

様々な人権課題には、どのような課題があるのでしょうか？その中の「障害者の人権」について取り上げます。

障害のある人とは？

・身体障害、知的障害、精神障害（発達障害を含む）や心身の機能等に障害があり、障害や社会のバリア（障壁）によって生活に制限を受ける状態にある人をいいます。

障害のある人を含む誰もが住みよい平等な社会づくりを進めていくには、全ての人々が障害について関心と理解を深めていくことが必要です。

ユニバーサル社会の実現のために

ユニバーサル社会とはなんですか？

障害の有無にかかわらず、老若男女すべての人々がお互いの人権や尊厳を大切にし、支え合い、誰もが生き生きとした人生を享受する社会のことです。誰もが住みやすい社会にするためには、様々なバリアを取り除いていかなければなりません。

日本で身体障害・精神障害・知的障害のある人は、総人口の約7%で15人に1人の割合で、障害のない人が多数を占めています。障害のない人にあわせて社会がつくられており、バリアが困りごととなっています。



障害のある人を取り巻くバリアはどんなバリアがあるの？

- ①物理面のバリア（建物、道路、公共交通機関などにおいて、利用者の移動面で困難をもたらすバリア）
 (例) 路上の放置自転車、狭い道路、隙間や段差、エレベーターのボタンの位置（車いすを使っている人にとって、ボタンが高い位置にあると押せない）。
- ②制度面のバリア（社会のルール、制度によって、障害のある人が能力以前の段階で奪われるバリア）
 (例) 学校の試験、就職や資格試験など、受験や免許の付与を制限する。盲導犬に対する理解が不十分なため、盲導犬を連れての入店を断られることがあります。
- ③文化・情報面のバリア（音声か点字、手話、字幕等の情報を遮るバリア）
 (例) 音声のみのアナウンス、視覚に頼ったタッチパネル式のみのお操作盤。
- ④心のバリア（差別や無関心等の他人を受け入れないバリア）
 (例) 障害のある人に対する無理解や奇異の目でみたり、かわいそうだと決めつけたりする事。



「心のバリアフリー（心理面・意識面の障壁の除去）」は、私たち一人一人の中にも社会の中にもあります。偏った見方や思い込み（先入観）にとらわれることなく、新しい未来のために自分ができること、気づいていかなければならないことがあります。誰もが暮らしやすい社会を目指しましょう。



よその国で
見た優しさ

★三週間のドイツ旅行中、ヴュルツブルクで見たことです。路線バスに乗っていると、バス停でベビーカーを押す母親が乗ろうとしていました。運転手は運転席から乗降口へ移動して、赤ちゃんが乗ったベビーカーをバスに運び入れ、その後、母親も乗り込み、バスは発車。ある所で母親は降車のボタンを押しました。バスは停まり、運転手はベビーカーを持ってバスから降ろし、母親も降りました。母親が運転手に丁寧な感謝の言葉をかけた印象がないので、「ダンケ」と普段のお礼だったと思います。運転手も何事もなかったようにバスを発車させました。

★運転手の行動を見て感じたことは、社員教育を受けていて、とった行動ではなく、日頃から人には親切・優しくすべきと社会環境の中で教えられ、自然に出来た行動のように思えたのです。

★日本では、乗車拒否をしたり、他の乗客から冷ややかな視線を浴びたり、運転手が乗降に時間をとられたと釈明するなどがあるとのこと。困った人の心の負担を軽く、又、無くするにはどんな言葉、手助けが適切なのか、日頃から訓練が大切だと考えています。
(h・s)



ぬくもりまゆちゃん 34

作・画:miho/監修:m・h
《梨狩りで見つけたもの》



(当センター職員による作品です)

啓発ってどんなことをしているの？

ブックス・フロー編

ブックス・フローは、市内 11 小学校を巡回して、人権本を貸し出す啓発の事です。可児市子ども達に本をたくさん読んでもらい、心豊かに成長してほしいという願いから始めました。

1ヶ月間、学校の玄関や廊下に現れる本棚と本。その珍しさに子どもたちは集まってきてくれるようです。そして何より喜んでもらえるのが「ぬくもりまゆちゃん」のしおりです。

子ども達の声

- ・まゆちゃんのしおり、たくさん集めているよ。
- ・しおりが欲しいから毎日借りているよ。
- ・この本、面白かったから友だちにも勧めたよ。

こんな嬉しい声が届きました。



今渡南小学校

始めた当初、本は図書室にあるが受け入れてもらえるだろうかと不安でしたが、11年間続け、喜んでもらえる存在になっていることを嬉しく思います。

「啓発のひかり」

★コロナ自粛から徐々に普通の生活に戻りつつある。

でも再開された音訳ボランティアは、マスクはもちろん、共用のキーボードにはサララップ、マイクにはカバー、人が変わる毎にすべて取替。消毒に始まり消毒で終了する。何も考えず暮らしてきた普通の生活が大切だったんだと今思う。

★プログラミング初歩の本を購入しました。驚くのは子どもの理解力。細かい訂正や発展も失敗しながらどんどん進めていきます。大人も負けていられません。あの子より面白いゲームを作ることが目標です。
(m・w)

★災害の度に思う。被災された方、その映像をテレビの画面で見ると心が痛む。しかし、嘆いてばかりいては、前に進めない。
片づきたい仕事・作業は、その日のうちに終わらせたいと思う事は誰にでもある。砂時計の砂粒が上からゆっくり落ちるようにその作業を一つずつ、ゆっくり終わらせていく。

「一度に二つずつ」「その言葉を何度も繰り返し、今日という一日を長く生きてゆつて欲しい。」
(E・C)